

徳成随風 45

桑名市文化財保護審議会長（委員）を引退するにあたって

2016. 04. 01

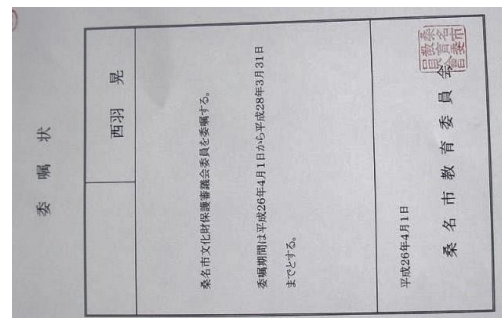
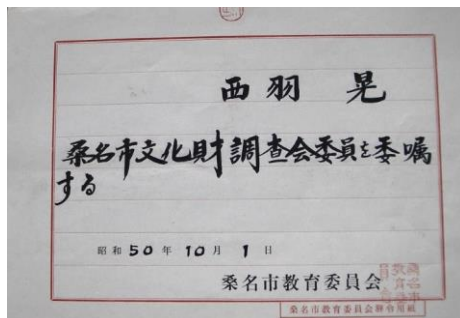
西羽 晃

私は今年4月6日の誕生日に満80歳となる。75歳を過ぎた時から桑名市文化財保護審議会長（委員）の再任(任期2年)を辞退してきた。その度に慰留されて今日に至った。今年（2016年）の3月31日に任期が終了するので、桑名市文化財保護審議会長（委員）を引退することになった。

私が75歳を超えて委員を引き受けた大きな理由は諸戸徳成邸の保存問題があった。桑名市文化財保護審議会長という肩書で発言することで、保存問題にも影響を与えるものと思った。現にユネスコ国際記念物遺跡会議の日本イコモス国内委員会へ保存を訴えた手紙を桑名市文化財保護審議会長の肩書で出した。それに対してイコモスから桑名市長に保存の要望書が送られてきた。昨年2月、市長は取得・保存の方向を出した。これで私が引退する花道が出来たと喜んだ。しかし、今年2月になって市長は金の問題で取得しないと表明した。痛恨の通りである。花道の途中に大きな穴があり、奈落の底に落とされてしまった。憤懣やるかたのない引退となった。

顧みれば、私は1975（昭和50）年10月1日に桑名市文化調査会委員に任命され、その後、名称は桑名市文化財保護審議会委員と改名され、また新桑名市になってからも引き続き委員を継続してきた。ほぼ40年間も務めたわけで、私の人生80年の半分が桑名市の文化財保護に携わってきたことに、我ながら驚いている。40年の間に2006（平成16）年から会長も務めた。

また1993（平成5）年4月1日から多度町文化財調査会委員をも務め、桑名市と多度町との合併で多度町文化財調査会が解散する2006年まで務め、その間に会長も務めた。40年の間に桑名市の文化財関連のことにいろいろと関わらせてもらって、その都度新しい知識を教えられることも多かったことを感謝している。



在任中の思い出も多いが、残念なことは諸戸徳成邸だけでなく、『桑名市史』

の全面的な改定、『しるべ石—桑名史跡めぐり—』『桑名市の指定文化財』の改定である。『しるべ石—桑名史跡めぐり—』は最近に私の与り知らぬところで編集されつつあるが、他は実現していないのが、心残りである。

『桑名市史』は本編・補編とも間違いの多いことで識者の間では有名である。実にお粗末な記述であり、粗雑な編集である。誤りは何百箇所あるか計り知れない。訂正されずに放置されているのは、桑名市の恥である。研究の進歩、合併による区域の変更による改定も必要である。

『桑名市の指定文化財』も同様にして、中味も変化しているし、合併による追加なども必要である。古い歴史観による指定名称も検討の余地がある。

私は文化財審議会の委員を引退しても、桑名の歴史研究・普及に精進するつもりである。1982（昭和57）年4月から桑名市中央公民館で郷土歴史講座の講師を今日も続けている。34年間の永きであるので、同じテーマになるが、少しでも新しい事柄を入れるように心がけている。これが老身に励みを与えてくれている。今後も心身ともに元気なうちは続けて、桑名の歴史を多くの人に伝えたいと思っている。